

## 佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和6年7月24日（水）

9：30～12：10

場 所：佐久市役所 6階601会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員7名（欠席3名）

事務局（広報広聴課長・広報広聴課職員・望月支所職員）5名

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 会議事項

#### （1）佐久市まちづくり活動支援金優良事業について

ア 令和5年度に佐久市まちづくり活動支援金の交付を受けた9事業の審査

イ 事務局より優良事業表彰に係る内規及び審査基準、審査の流れ等について説明

ウ 事務局から事業概要及び実績報告について説明

エ 審査

次の順で審査

#### ① バルーンアカデミープロジェクト

委員：記念冊子を作成しているが、毎年配布するように作成したのか。

事務局：30周年記念事業として作成している。

#### ② 小さな村のSDGs事業

委員：報告書には常和まちづくり協議会の活動とあるが、協議会の事業と支援金事業が混在しているのか。すべて支援金の活動が記載されているのか。

事務局：協議会としての活動が記載されているので、一部協議会のみ活動が記載されている。

委員：常和区というと行政区と捉えてしまうこともあるので、常和地区とか地域の方がいいと感じた。

委員：まちづくり協議会としては1つの活動という理解でよいのでは。

#### ③ こどもまんなか夢みるプロジェクト

#### ④ 食・農・環境が台所につながる「MINORI キッチン」

委員：講演会の大人の人数は几人か。

委員：参加費から推測すると大人24名だろう。

#### ⑤ ココロオドルSAKU（地域交流事業）（⑤の審査中、星野委員は退席）

委員：報告書に実施した日が記載していない。ポスターやチラシの現物が添付してあるとわかりやすい。

事務局：ポスター・チラシの現物の提出は求めてないが、内容がわかればよいことになっている。

委員：現物をだしてもらってもいいのでは。わかりやすい。

⑥ 「つくろう！ “舞台芸術の日”」こども実行委員会事業

⑦ 望月小唄 95 周年記念事業

委員：報告書の添付資料が少なく、概要がわかりにくい。内容がわかるものやチラシ等を添付してほしい。

⑧ 手仕事、文化芸術を多世代に向けて発信、体験する取り組み「猪口でつながるプロジェクト」、「民芸館学校」

委員：ポスター・チラシの添付をしてほしい。

⑨ 望月お弁当プロジェクト

委員：ポスター・チラシの添付をしてほしい。

⇒審査終了

## (2) 佐久市まちづくり活動支援金事業審査（二次募集）の公開審査について

### ア 事務局より、審査の流れ等について説明

今回の審査は1件。審査員1人当たりの平均点数が15点に満たない場合は、予算の範囲以内であっても推薦は行わない。

重点テーマに該当する事業については、評価した点数の合計にそれぞれ5点を加算する。

### イ 審査

事務局から事業概要についての説明を行ない、その後、質疑応答

審査事業は以下のとおり

①シニアも活躍する岩村田の子どもの居場所事業（岩村田本町商店街振興組合）

委員：従来の居場所事業と今回の事業との違いは。

事務局：今までの居場所事業にシニアが関わることで、シニアも活躍できる場ができる。

また、シニア向けの講座も実施し、そこで学んだことを生かして活躍してもらおう。

委員：今日、岩村田本町商店街振興組合のチラシが入ったが、そこに「令和6年度佐久つと支援金活用事業」と記載してあったがいいのか。

事務局：元気づくり支援金は採択になっているが、審査はこれからと伝えてある。

団体の方には、このことについて伝えさせてもらう。

委員：注意してもらいたい。

委員：高校生ボランティアの謝礼について、5,000円とあるが、この金額ではボランティアではないのではと感じる。

事務局：これは1回につき5,000円の謝礼ということではなく、参加した回数に応じて支払う交通費で一人当たりの上限が5,000円ということなので伺っている。

委員：一人当たりの上限が5,000円ということは、実際はもっと低い人もいるということですね。交通費で5,000円は高いと感じる。

委員：自分の行っている事業にも高校生ボランティアがいるが、お茶1本などしかお礼ができない。それでも高校生が自主的に来てくれる。子どもたちにとって学びになるので、子どもたちのボランティアに金額が生じるのは疑問。

事務局：意見として記入していただければ団体に伝える。

委員：チラシについて問題とを感じる。きちんと対応してもらいたい。この会議の意味がなくなってしまう。

委員：そうですね。この審査の意味がなくなってしまう。

事務局：事務局からもきちんと伝える。

委員：仮に採択された場合、いつから有効になるのか。

事務局：事前着手届が提出されているので、申請した以降であれば対象になる。ただし、このチラシの表記は問題。

委員：回収するか。シールを貼るか。

委員：申請中と表記があればよかった。

事務局：事務局の説明不足もあるのかもしれない。申し訳なかった。

委員：申請が採択されるのを見越していると捉えられる。

事務局：事務局からもきちんと話をさせていただく。

⇒審査終了、集計開始

(休憩15分程度)

### (3) その他 まちづくり活動支援金の見直しについて

事務局：まちづくり活動支援金の見直しについて、前回の会議で出された意見を基に改正案を作成した。トライアル事業枠や少額枠に通常と重点で補助率分けるなど項目を増やした。この改正案については、理想ではあるが、区分を細かく分けると柔軟性に欠けるのではと感じる。もう少しいただいた意見を基にシンプルにしたい。財政面から10/10というのは、他市も含め事例がない。もう少し関係部署と協議しながら進めていきたい。

委員：この表の金額が大きい枠の10/10は厳しいと感じる。トライアル事業枠については、支援できたらいいと思う。あと、簡略化について説明してほしい

事務局：プレゼンをすることで、資料の簡略化ややり取りの期間も短縮もできている。

委員：申請について、以前も簡略化をお願いして検討してもらったがあまり効果が感じられない。申請する立場の人は大変。もっと様式について検討してほしい。

委員：私も申請したが、書類の作成が本当に大変だった。私はプレゼンした方がよかったが、コロナで出来なかった。また、この会議がこれだけの検討をやっていることを知らなかったし、申請団体はこれだけの会議をやっているとは知らないと思う。

プレゼンは、今はSNSなどで情報が飛び交っているので、プレゼンも動画で撮ってこの会議で視聴して検討するのもいいと思う。一年間の活動を資料で見せてもらったが、この資料だけで審査するのは心苦しかった。

活動内容も動画で撮影して提出してもらえば活動をもっと知ってもらえると思う。

会長：審査方法もプレゼンと書類審査で選択できるようにしたらどうか。また、仕事や予定があり来られない場合もあるから、動画を提出する選択肢があってもいいし、書類と動画を両方使ってもいいと思う。

事務局：後々の表彰にも影響がでる場合もあるので、審査自体はプレゼンの有無に関わらず、同じ基準の中で（区分けしないで）行うのが良いと思う。

会長：以前、住んでいた市では、佐久市でいう「さくさぼ」にあたるセンターがあり、申請書類作成のサポートをしてくれた。まず、そのセンターに提出して、アドバイスを受けて見直しができ、受理までしてくれる。「さくさぼ」の仕事が増えてしまうがそれでもいいのでは。

委員：そうなればハードルが下がると思う。事業はできるけど書類の作成は大変。

委員：さくさぼが窓口になれば、自立した場合に、さくさぼを介して活動の周知をしてもらえるなどの繋がりができ、サポートを受けられるので活動を継続していける。

会長：コロナのあたりから申請件数が下がってきている。裾野を広げる意味でも少額の活動、まさにトライアルが大事になってくると思う。

事務局：若者の活動しやすい枠組みと若者の参画という面からもトライアル枠があってもよいと思う。

委員：過去の実績を見ると、予算は500万円で交付決定額をみる1,622千円ということはあまり使っていないということか。

事務局：この金額は、県の元気づくり支援金を活用しているため減額になっているが、前回の会議でもお話したが、この元気づくり支援金が併用できないという話が出てきている。県のワーキンググループで話し合いが持たれていて、広域的な活動をされている団体には県でも支援するが、自治体で完結する活動については、自治体で支援するというような話がでてきている。つまり、今まで県の元気づくり支援を活用して減額になっていた金額が、今後は市の支出に上乗せになってくると考えられる。

また、交付金制度の見直しもあるため、予算の積算根拠も変わってくる。

会長：今後、予算額が確保できるかどうか見込みが難しいということですね。

委員：事業費が多い事業があると、予算が足りなくなるのでは。

会長：県の元気づくり支援金が活用できないと、予算を使い切るのでは。

委員：毎年事業を変えて申請がある団体もあるが、すべて新規でいいのか。

委員：事業の継続性がないけどいいのかなども考える。

委員：市のためにやりたいという人はたくさんいる。支援金も活用したいけど、人をあつめるのも負担であきらめている。一人ひとりが活用できる仕組みができてサポートしてもらえるととってもいいと思う。さくさぼに関わってもらいハードルを下げてもらえるといい。市がなかなかできないことを、民間の人たちが自分たちの力でやりたいという人たちの支援してほしい。

会長：まさに協働という取り組みですね。

事務局：さくさぼの存在をもっと周知する必要があるし、協働という部分を周知して、気軽に参加できるような仕組みが必要と考える

**【事務局より、優良事業審査の結果発表】**

最優秀賞：優秀事業の最上位事業 1件

優秀賞： 審査基準を上回った事業 6件 を決定

**【令和6年度佐久市まちづくり活動支援金事業第2次募集分 審査結果発表】**

集計結果について事務局より発表

申請のあった事業については、審査員1人当たりの平均点数が基準点数以上となった。

推進会議より当該事業について、市へ推薦する。

4 その他

- ・2024年度佐久平地域まるごとキャンパス事業について（まるキャンチラシを配布）

今年度もプログラムへの参加募集が始まっている。委員の皆様の中には、プログラム提供いただいている団体さんもあり、ご協力に感謝しております。引き続き周知等にご協力いただければと思います。

(連絡事項) 次回の会議について、9月下旬から10月頃に、支援金の見直しとまちづくり活動支援金3次募集分（駒プロ分のみ）の申請があれば審査を予定しています。

5 閉会